



トップに聞く

本間 太郎 (Homma Taro)

明清建設工業株式会社 代表取締役社長

京都市南区上鳥羽尻切町 4 番地

資本金：8,000 万円／社員数：74 名 (2019 年 3 月末現在) ／事業内容：舗装工事、土木工事、アスファルト合材の製造・販売ほか／創業：1952 年 (昭和 27 年) 5 月、／売上高：47 億 6,100 万円 (2019 年 3 月期) ／生年月日：1981 年 (昭和 56 年) 5 月 生まれ (38 歳)、京都府京都市出身。

東京大学工学部卒の俊英が、祖父の命に従って 31 歳の若さで事業を継承し、社長に就任。自らを“慎重派”と称し、まずは拠点をつくり安定を確保してから攻めていきたいと語る。その意味で、祖父・父がつくりあげた現在の基盤とポジションは自分向きだとも分析。就任時から建設業界の未来を見据え、組織改革などに着手。新時代の企業のモデルケースを目指して、社員一丸となって取り組んでいる期待の新進経営者である。

● 会社の現況

いい仕事はいい環境のもとで生まれる

—— まず会社の現況についてご紹介ください。

当社は 1952 年 (昭和 27 年)、舗装会社として京都で創業。「みちづくり」を事業のメインとしています。電線共同溝工事や橋梁補修工事などの土木工事も多く手がけています。また、建築外構工事を得意としており、100 社を超える企業様からお声をかけていただいております。

「いい仕事はいい環境のもとで生まれる」との考えから、5 年をかけて社内を全面リニューアルし、席はフリーアドレスにしました。チームごとに集まって座ったり、ベテラン社員と若手社員が隣同士で座って交流をはかるなどしています。さらに、新たにベテラン社員で構成された工事支援室をつくり、若手社員のバックアップに努めています。

また、積極的に採用活動を行っており、現在 35 歳以下の社員が 1/4 以上を占めています。

—— 自社で誇れるものを挙げてください。

「社員を信じ、自主性を重んじる社風」です。祖父と父に共通するのが、社員を心底信じていること。「いい社員に恵まれた」「みんな本当に頑張ってくれている」との言葉を何度も耳にしました。その思いが、経営者と社員、さらに社員同士の信頼関係につながっているのだと感じます。私自身、その境地に少しでも近づけるよう自己研鑽していきたいと思えます。

当社には自律した魅力的な社員がたくさんいます。彼らは熱い情熱を持って仕事に取り組んでいます。会社が存続し、お客様から高い信頼を頂いているのは、彼らのおかげであり、長い年月を経て形成された「明清建設工業の社風」によるものだと誇りに思っています。

—— 地場産業としての理念、地域社会との共存姿勢についてお聞かせください。

社会インフラ、特に道路整備を通して、私たちは地域の経済と安全を支えてきました。ま

た、地震や台風などの自然災害が起こったときには、地元の建設業者が真っ先に駆けつけ、救助のための道を拓きます。人々の暮らしと命を守る事が地域に根を張る建設業者の使命であり、やりがいのある仕事だと感じています。

その一方、災害時の建設業者の貢献を知らない人々が世間には多々います。建設業に携わる人が自信と誇りを持って仕事ができるよう、正しく評価される社会になればと願っています。

● 社長就任・趣味など

社員の幸せと企業の成長を追求

—— 社長に就任されたのはいつでしょうか。

社長に就任したのは2012年(平成24年)6月、31歳のときです。同年5月、当社が創業60周年を迎えたタイミングで実父(現会長)から引き継ぎました。私は大学卒業後の2005年(平成17年)入社ですが、その年度の初出式でカリスマ的な存在だった祖父(前会長)が「30歳で私を社長にする」と公言しました。私も社員も驚きましたが、この発言が決定事項として社員の胸に刻まれ、私も会社を継ぐ覚悟ができました。そして、社長に就任して8年目を迎えた今、受け継いだ会社が自分の会社になったと感じています。

—— 社是についてお聞かせください。

当社の社是は『社員の幸せと企業の成長を追求すると共に、「みちづくり」を通して社会に貢献する』です。社会に貢献するためには、まず働いている社員が幸せでなければなりません。自分たちが幸せだと感じ、その幸せを周りの方々(社会)と享受したいという思いが社会貢献につながると信じています。そのためにも、社員そしてその家族を幸せにすることが、私にできる一番身近な社会貢献だと考えています。

—— 社長の座右の銘は？

「自分を信じて、ベストを尽くす(Believe in

myself. Do my best.)」です。幼少期から現在まで勉強やスポーツ、仕事その他において、少しの成功とたくさんの失敗を重ねてきました。その経験を通して「やるだけのことをやったときは、失敗しても納得いくことが多く、そこで得た経験が思いもしない成功につながる」ことにも気づかされました。私にとって、「自分を信じる」と「ベストを尽くす」ことは車の両輪であり、常に意識し大切にしている信条です。

—— 趣味をどのように楽しんでいますか。

趣味はゴルフとテニス、ファッションです。テニスは中学時代からはじめ、得意なスポーツのひとつです。テニス仲間とは今でも交流があり、起業をしたり海外で働いている友人たちと会話を重ねては刺激を受けています。

ファッションは大学時代に興味を抱き、古着やアクセサリを求めてよく下北沢や上野に通いました。今でも、ビジネスシーンなどでは好きなものを身につけて気分を高揚させています。それが高じて、スポーツブランドのミズノとコラボレーションをして作業着をデザインしました。今年12月頃に完成予定で、自社の作業着として採用後は、法人向けに「MEISEIモデル」として販売していきたいと考えています。

—— 最後に、今後の業界展望や抱負について。

建設業が重要でなくなる未来を、私は想像できません。毎年のように自然災害が起こる日本では人々の命、生活を守るために建設業は必要不可欠です。世の中のニーズに応え続けるためにも、若い世代が活躍する会社を作っていかなければなりません。約10年前、建設業の景気がよくない時代に当社では採用活動を積極的に行いました。これから一緒に会社を盛り上げてくれる「子」を採用し、育てたいという思いからです。そのときに入社した「子」が次の世代を入社させ育ててくれています。この正のスパイラルを続け、魅力的な社員が増えていけば、自ずと仕事の幅が広がっていくと信じています。